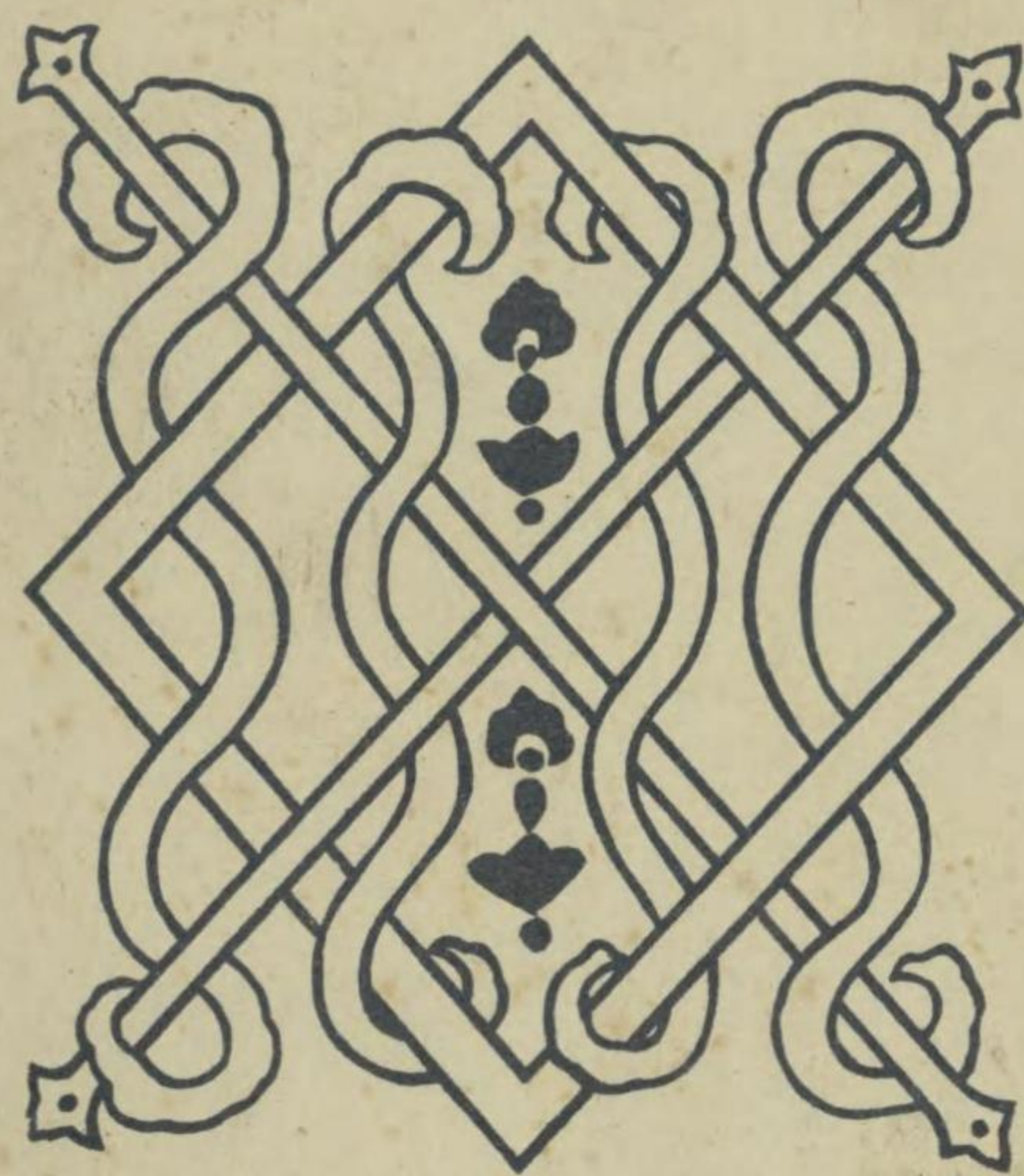


Collection of Songs for
Primary Schools and Homes.

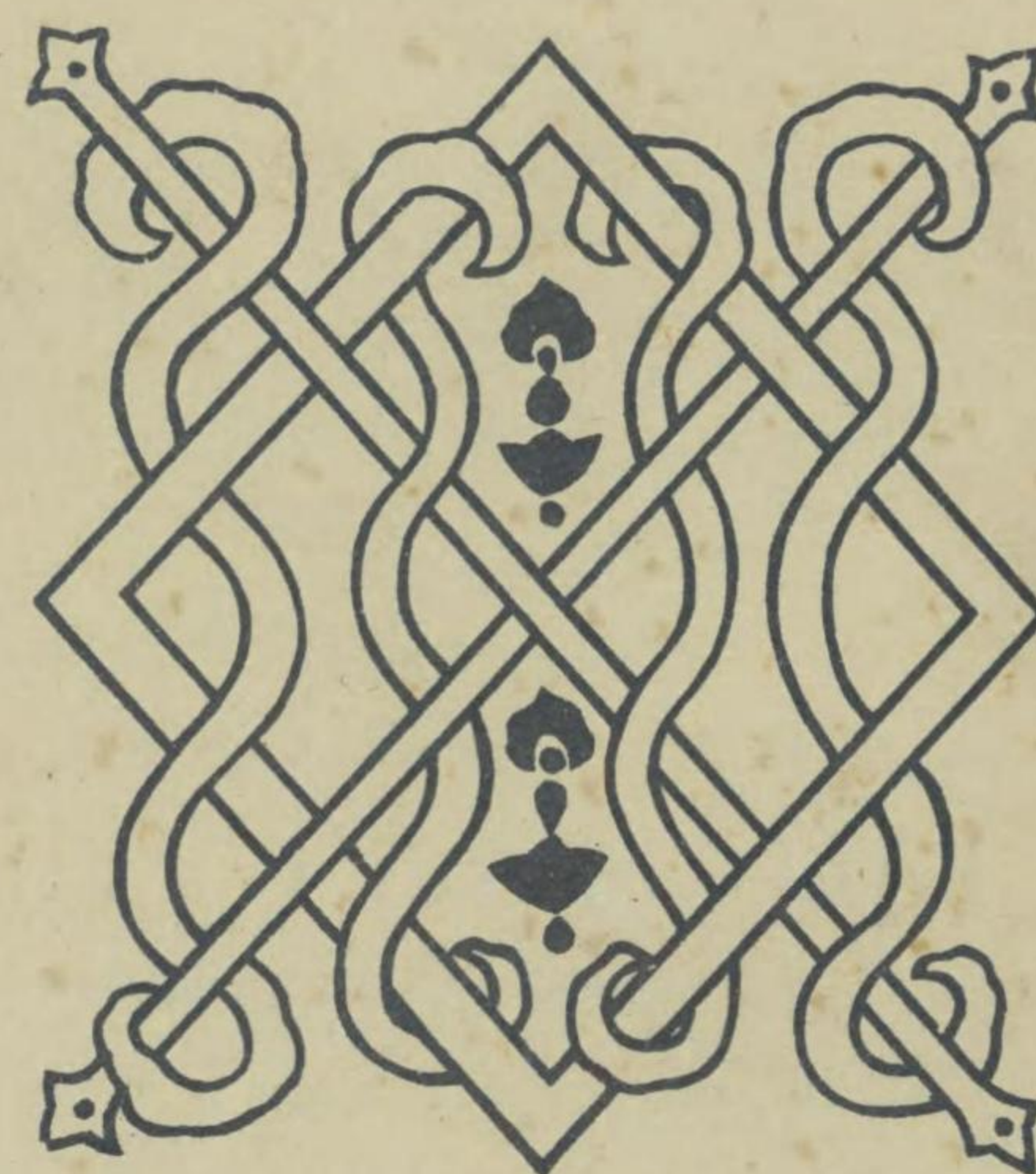


童謠唱歌名曲全集

田村虎藏・福井直秋・小松耕輔・共編

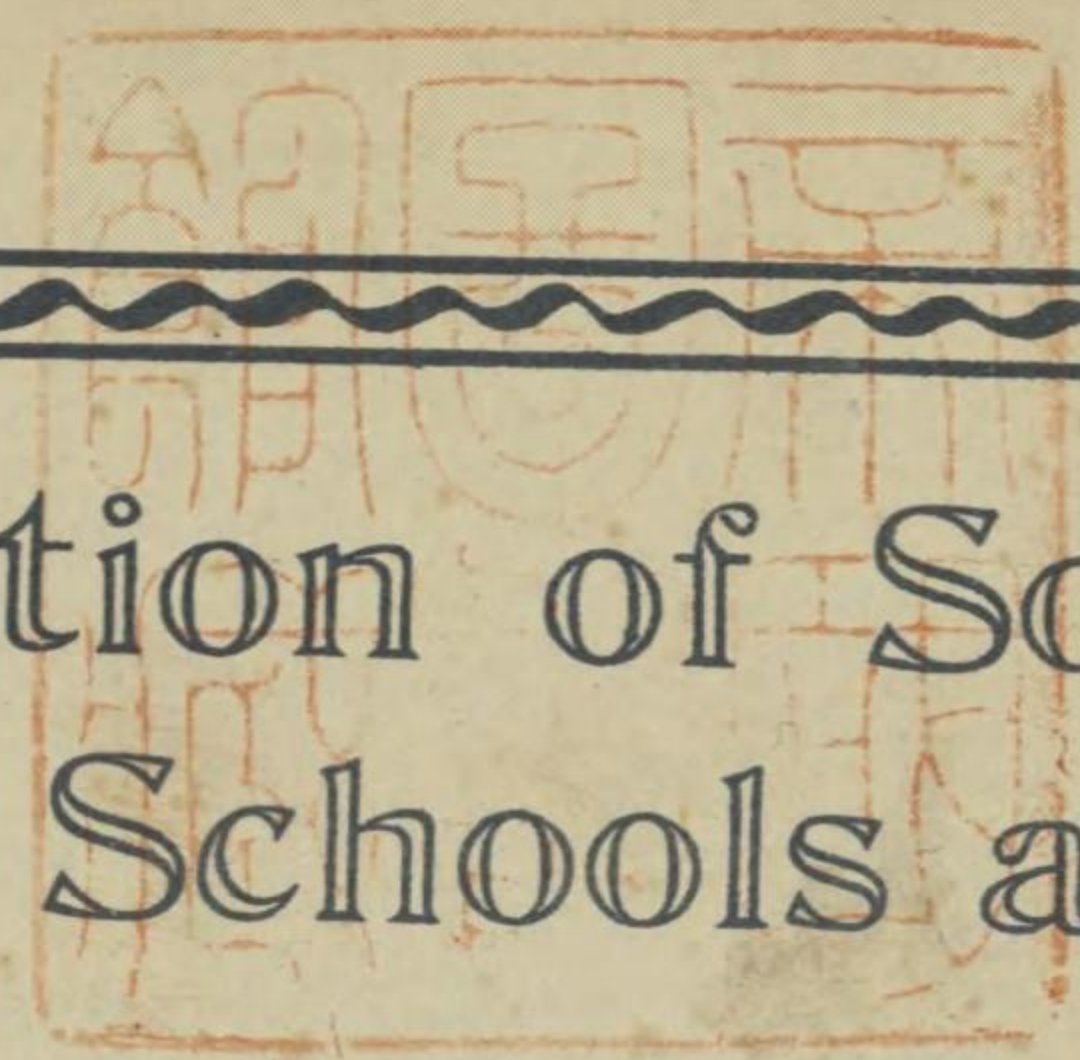


第
四
卷



東 京 京 文 社 刊 行

EDITION · KYOBUNSHA · TOKYO



144.

姉と妹

前田純孝 歌曲
外 國

犬童球溪 歌曲
ケ ル ャ

親しみを込めて【♩=66】

ロカ ア
ミみク
クズ
ウゑタ
ゴまへ
クふヨ
ワわケ
ビブリ

1. ク ル シ ミ カ ナ シ ミ ト
2. あ ね ぎ み い も と と あ
3. ム ク ロ ハ ワ カ レ テ フ

モ ニ ウ レ ヘ ヨ ロ コ ビ タ
さ に ゆ ふ に し た し み タ
タ ツ ナ レ ド ヘ ダ テ ヌ ヲ コ

ノ シ ミ ト モ ニ ワ カ チ
つ ベ る さ ま に を み ね ば
コ ロ ハ ヒ ト ツ ナ レ ヤ

二 大空晴れし夜半を
 獨り立ちて眺めよ
 名なき小さき星の
 見るほどに限り知られず
 幽かに光るそのさまは
 空の海底に潜める

手に手を取りて 語らひ行けば
 晝の暑さ俄に消えて 樂しやこの身
 深山の清水 浸み入る心地。
 二 吹くよ夕風 岡のあなた
 月も宿るか 草の葉末
 手に手を取りて 露分け来れば
 晝の惱み頓にも失せて 涼しさ此身

光芒四方に 矢のごと射れば
 我が世は早も ほがらに明けぬ。
 一三四夕 潮
 川路柳 紅歌
 フイ 曲
 一 いざ漕げわが船 輝く波間
 夕日は茜に み空を染めぬ

くまもなしや 月かけ。
 一三七 いざ海越えて
 傳 福井直秋 秋歌
 一 玉藻匂ふ 海のをちに
 遠くつよく 奇しき島
 椰子のみのり 珊瑚みちて

永久に春の すがたあり
 いざ／＼我等も 其の鳥もとめて
 移さん大和の 花の色。
 二 潮かをる 海のあなた
 夢にかよふ うまし國
 人ささく 知識ひらけ
 神に近き たくみあり
 いざ／＼我等も 其の國尋ねて
 もとめん學びの 實をば。

一三八 歸帆

杉谷代水歌
 ベル 水歌

一 霞める沖邊に 浮ぶは煙か
 「我が待つ船か それよ
 早も寄れ その船」 (復習)
 二 海原遙かに 煙と見えしは
 「あだなる 雲かあらじ
 來れ早や あの船」 (復習)
 三 汽笛は響きぬ 波をば破りて
 「歸るは父の……うれし
 父の船 早や寄れ」 (復唱)

一三九 漁歌

佐々木信綱歌
 ベル 水歌

一 朝日の光りも のどけき海原
 船歌うたひつれて 漕ぎ出づる舟人
 はてなき波の上を 漕ぎ進む舟人。
 二 夕日のくれなる しづめる磯ぎは
 釣にしえものさはに 漕かへる舟人
 わが家に待つ子思ひ 漕急ぐ舟人。

一四〇 月夜

川路柳 紅歌
 ツエル 水歌

一 月の夜を わたる鳥
 さやけき影 青澄む中空
 光る翼よ。

二 啼きすぎて いづこゆく
 青きみ空 白銀の星の
 亂れ散るなり。
 三 あまねきは 月かげの
 青き夜ぞら 鳥の羽消えて
 光るうす雲。

一四一 蟲の音

傳 福井直秋 秋歌
 福井直秋 秋歌

一 ちんちろ／＼／＼ちんちろりん
 ちんちろ／＼／＼ちんちろりん
 なくよ なくよ 松蟲のなく
 くまなき月影 すゞしき秋風
 庭にみつる むしの音のしげしや
 庭にみつる むしの音のしげしや
 二 りんりん／＼／＼りんりん
 りんりん／＼／＼りんりん
 なくよ なくよ 鈴蟲のなく
 きよけき白露 さやけき月影
 園にすだく むしの音のすゞしや
 園にすだく 虫の音のすゞしや。

一四二 友

萬原しげる歌
 弘田龍太郎 秋歌

一 草にはやき しら露は
 風に散りてくれにけり 文の窓。
 二 文の窓へ 友逝きて
 日ごと夜ごと 歌はみな友を呼ぶ。
 三 友を呼ぶは 空の雁
 蟲も草に あはれわが友何處。
 四 友よいづこ この秋を
 おくる歌のありけりや あゝ友よ。

一四三 星祭

前田純孝歌
 外 國 秋歌

一 うち出す太鼓に み山もどろ

吹きなす笛の音 雲までひよく
 御神も享くるか 幣帛さへうごく
 吾等が捧ぐる 神樂あそび。
 二 太鼓のとどろき 村々ゆすり
 鉦の音かけ聲 空までひよく
 御神も享くるか 天津日さへ笑まふ
 吾等が捧ぐる 神樂あそび。
 三 千町の垂穂も 揃ひて躍れ
 畦なる枝豆 ふれ／＼み鈴
 草むら出で来て 松虫も歌へよ
 今日こそ吾等が 里のまつり。

一四四 姉と妹

大童球 溪歌
 ケ 溪歌

一 苦しみ悲しみ 共に憂へ
 よろこび樂しみ 共に分ち。
 二 姉君 妹と 朝に夕に
 親しみ睦べる さまを見れば。
 三 身體は分れて 二つなれど
 へだてぬ心は 一つなれや。

一四五 突貫(佛國々歌)

大和田建樹歌
 リ 樹歌

山に滿ち野に溢れ 滿目皆敵
 對峙する我が軍 士氣燃ゆる如し
 進軍の號命は 待てども未だ下らず
 嵐過ぎて 天地たゞ静か
 見よ／＼日の御旗高く揚る時は今ぞ
 突貫 突貫 進めや國のみため。

一四六 進軍(米國々歌)

桑田春風歌
 米 國 風歌

進めよ進め 勇みて進め
 行方堰く河も 劍なす山も
 敵をのみ目當に 涉れよ越せよ
 関の聲つくり 一舉に攻めて

仇なす敵を 討ちてぞ進め
 正義に勇む 我が兵の前には
 如何なる敵か 手向ひ得べき。

一四七 秋の聲

淺井良三歌
 佐々木 水歌

一 小草に宿る 露の香に
 酔ひつゝうたふ きりぎりす
 は、その森に みの虫は
 雨にぬれてぞ チチと鳴く。
 二 馬追ひ虫や こぼろぎの
 よき音をきゝて 秋の蝶
 小萩のかけに やさしくも
 清き夢路を たどるかな。

一四八 小鈴の音

藤村 作歌
 フ 村 秋歌

一 さやけく 明くる朝は
 小鈴の玉の音 リリリンリン
 いま覺むる 夢のなかに
 小鈴の玉の音 リリリンリン
 聲無く青葉を渡り連咲く小池を掠め
 涼風の 擔を吹けば
 リンリリ リンリリ
 リンリリ リンリリ
 小鈴の玉の音 リンリンリン
 木の草も萎えし晝は リンリンリン
 音もたゆく鳴るや小鈴
 リンリンリン
 今しも晝寝の床に
 ものうく疲れし心
 休むる人の夢に
 リンリンリン リンリンリン。
 二 しづかに暮るゝ ゆふべ
 小鈴の玉の音 リリリンリン
 鳴く虫の 聲の中に
 小鈴の玉の音 リリリンリン

昭和七年一月廿一日印刷
昭和七年一月廿七日發行

◇豫約出版◇ 童謠唱歌名曲全集

第四卷・豫約價 金貳圓八拾錢



編纂者 田村虎藏
東京市牛込區築土八幡町三一

編纂者 福井直秋
東京市外長崎町荒井一八八四

編纂者 小松耕輔
東京市外杉並町阿佐ヶ谷四八五

發行者 鈴木茂
東京市神田區淡路町二ノ二

印刷者 東京市芝區金杉新濱町一二
單式印刷株式會社

代表者 和田助一

發行所

東京市神田區淡路町二ノ二
振替口座 東京八三二六番

京文社

電話神田(25) 三三九〇番
三三九二番